

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ChicoBote			
○保護者評価実施期間	R7年 2月 10日 ～ R7年 3月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48名様	(回答者数)	33名様
○従業者評価実施期間	R7年 2月 10日 ～ R7年 2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 30日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	臨床心理士、公認心理師が専門的知見に基づいて、保育士らと協力連携をおこないつつ、心理状態の観察や分析をするなかで、心理に関する相談や助言をおこない、より児童に必要な支援技術や支援方法を見い出していく。さらに支援内容を情報共有することで、個別療育と小集団療育の両方で児童の成長に役立てることができる。	臨床心理士が定期的に小集団療育に参加実施することで、保育士と共に専門セラピストの視点で児童の心理状態の観察や分析をするなかで、心理に関する相談や助言をおこない、より幅広く多角的な視点から新たな療育の技術や提案が出来るよう保育士との連携と協力を意識的にこなっています。	今後も、専門職による専門的視点から保育士との多角的な連携に力を入れつつ、更なる相互理解と連携協力のもとで児童の発達と成長のための療育に取り組みます。 守秘義務と個人情報保護を順守し、お子様と保護者様の思いに寄り添った、支援を常におこなってまいります。
2	言語聴覚士が専門的知見に基づいて、保育士らと協力連携をおこないつつ、表出語彙の拡大や言語理解によるコミュニケーション能力の触発など、より児童に必要な関わり方や言語技術、支援方法を見い出していく。さらに支援内容を情報共有することで、個別療育と小集団療育の両方で児童の成長に役立てることができる。	言語聴覚士が定期的に小集団療育に参加実施することで、保育士と共に言語聴覚士の視点で児童の表出語彙の拡大や言語理解によるコミュニケーション能力の触発など、より児童に必要な関わり方や言語技術、支援方法を見い出すことで、多角的な視点から新たな療育の技術や提案が出来るよう意識的に保育士との連携に力を入れています。	今後も、専門職による専門的視点から保育士との多角的な連携に力を入れつつ、更なる相互理解と連携協力のもとで児童の発達と成長のための療育に取り組みます。 ひとりひとりの子どもの個性を大切にしながら、子どもの視線を大切に理解語彙の拡大と表出語彙の支援に取り組みます。
3	作業療法士が専門的知見に基づいて、保育士らと協力連携をおこなうことで、精神機能の改善、また、食事、着替えといった日常生活に欠かせない行為や小集団に参加するための支援技術や支援方法を見い出していく。さらに支援内容を情報共有することで、協力連携して個別療育と小集団療育の両方で児童の成長に役立てることができる。	作業療法士が定期的に小集団療育に参加実施することで、保育士と共に作業療法士の視点で児童の精神機能の改善、また、食事、着替えといった日常生活に欠かせない行為や小集団に参加するための支援技術を分析するなかで、より幅広く多角的な視点から新たな療育の技術や提案が出来るよう保育士との協力連携を意識的にこなっています。	今後も、専門職による専門的視点から各訪問施設との多角的な連携に力を入れつつ、更なる相互理解と連携協力のもとで児童の発達と成長のための療育に取り組みます。 出来なかったことが出来るようになった喜びと達成感から、自己肯定感の促進を促し、全身・微細運動と共に、精神機能の安定にも取り組んでまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会の実施回数が少ない。	国家資格の有資格者が、専門的な療育に携わるなかで、保護者会の時間を頻繁に設けることが出来ていない。	保護者会の時間を確保できるよう、業務改善と業務の効率化に取り込むことで時間を確保していきたい。
2	ペアレント・トレーニングを実施していない。	家族支援プログラムの一環として、日々のフィードバックや、専門セラピストによる面談等をつうじて家族支援をおこなっているが、ペアレントトレーニングとしては実施出来ていない。	引き続き、日々のフィードバックや面談に尽力するとともに、外部研修としてのペアレントトレーニングのご案内を強化していきたい。
3			

公表

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名 ChicoBote

公表日 R7 年 4 月 30 日

利用児童数 48名様

回収数 33名様

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	31	2				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	33				多いくらいに感じます。 十分に配慮していただいていて、ありがたいです。	専門セラピストをはじめ充実したスタッフがお子様の療育の為に精一杯に取り組めます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	32	1				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	33					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	33					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	33					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	33					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	32			1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	33					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	32	1				
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	16	2	2	13		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	33					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	33					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16	3	3	11	今まで参加したことがないので、開催されているのかどうか知りませんでした。	今後の研修会の開催を検討すると共に、外部機関が開催する家族支援プログラムのご案内をさせていただきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	32	1				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	29	2		2		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	32	1				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	1	5	15	特に保護者同士の交流会というのは参加したことがないです。開催されているのかどうか知りませんでした。	年長児童の保護者を対象に、就学前に親子茶話会として3月に開催をしております。今後さらなる拡充を検討してまいります。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	31	1	1			フィードバックをおこなうスタッフをはじめ、言語聴覚士、作業療法士、公認心理師、児発管がおりますので、ご意向に寄り添った対応をさせていただきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	32		1			
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	29	2		2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	32			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	24	1		8	防犯マニュアルについて、地下で出入口が少ないということもあり、もしもの場合のことを聞いておきたいです。	地下から非常口を抜けると階段ですぐに地上へ脱出できます。また中庭には非常避難バシゴがあります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	24	2		7		年間２－３回の避難訓練や都島消防署との合同訓練や非常災害にそなえた訓練をおこなっております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	30	1		2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	29	1		3		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	33					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	32	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	32	1			帰りの時間にタブレットで動画をみせるのはやめて欲しい。	フィードバックの時の動画だと思われます。今後は必要最小限の療育に必要な動画のみとし慎んでまいります。

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ChicoBote		R7 年 4 月 30 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	1	充分なスペースを確保するとともに、時間をずらしてご利用いただくことで、混雑をさけるように工夫しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		指定基準を満たしており、加配の職員も配置しております。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		建物の構造上完全なバリアフリー化は難しいですが、ご利用者様に合わせた合理的な配慮を工夫しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		日頃から衛生管理を徹底し清潔な環境を整えています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		毎日業務前のミーティングと、定期的に業務改善ミーティングを実施しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10		改善すべき点に優先順位をつけて改善に努めています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		当事業所のホームページで公開しています。今回の評価表の内容に基づいて業務改善に繋げてまいります。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		定期的な面談や、朝礼と終礼で皆の意見を把握し業務改善につなげる取り組みを日々おこなっています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	6	都島区や旭区の事業所と担当者会議の機会等に療育の様子を評価していただき、業務改善につなげております。	今後、第三者による外部評価専門機関等への依頼も検討してまいります。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	1	地域部会の研修会参加や、外部研修の案内と共に、スキルアップの為の社内研修会等を定期的に実施しています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		専門家や国家資格保持者が発案したプログラムを用い適切な療育方法を検討し支援プログラムを作成し公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		当社指定アセスメントシートを使用し、発達検査の結果等も踏まえ児童と保護者のニーズを客観的に分析して作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		児童発達支援ガイドラインと本人支援の5領域に基づき、関わる職員の共通理解の下で児童にとって最善の支援内容を設定しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		朝礼終礼やモニタリング時に職員間で支援計画に沿った支援を行っているかの確認を行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1	標準化されたツールと共に専門セラピストや国家資格所持者の見立て、小集団での行動観察など多角的に適応状況を把握している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		児童発達支援ガイドラインと本人支援の5領域に基づき、関わる専門セラピストや保育士との共通理解の下で、児童にとって最善の支援内容を具体的に設定しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		専門家や国家資格保持者と共に保育士らが協力して適切な療育方法を検討し活動プログラムを作成しています。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		音楽・運動・製作・言葉・外出・ルール・集団・個別等、同じものが重ならないよう活動プログラムを実施しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10		子どもの発達に応じ、個別活動と集団活動を組み合わせた支援計画を作成しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		業務開始前にミーティングを行い、役割の確認と業務分担をチームで行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		業務終了時にミーティングで振り返りを行い、その日の支援内容を記録し、職員間で共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		日々の支援記録の内容を記録し共有することで日々の検証・改善に取り組み、PDCAサイクルにつなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		モニタリングを定期的に行い、職員ミーティングで支援内容の見直しの必要性を常時検討しています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		利用者様に精通した職員がサービス担当者会議に出席しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		必要に応じて、主治医の指示書や意見書をもとに支援内容を改善すると共に役所、保育所、幼稚園、小学校等と連携共有しています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		移行先や保護者の要望に応じて、支援内容等の情報共有をおこない、保育所等訪問支援やサポートブック等のツールを活用して情報提供や相互理解をおこなっています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		就学時や移行時には支援内容等の情報共有をおこない、日々の活動の様子を情報提供することで相互理解を図っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	9	1	地域の自立支援協議会や福祉支援フェスタの機会に連携をはかり、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けています。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9	1	外出支援の際に地域の公園で、地域の子どもたちや保育所、保育園の子どもたちとの挨拶や交流をおこなっています。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		ご利用いただいた際に子どもの発達の状況や課題について報告を行うと共に必要に応じて個別に相談の時間を設けています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	3	面談やフィードバックの際、対応などのアドバイス心がけています。また必要に応じて外部研修によるペアレントトレーニングをご案内しています。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		見学時や契約時の来訪の時に詳しくご説明をさせていただきます。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		こどもや保護者の意思を尊重し、子の最善の利益を優先しながら、子やご家族の意向を定期的にお伺いする機会を設けています。	

保 護 者 へ の 説 明 等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10		アセスメントとモニタリングの後に、児童発達支援計画書を示しながら説明をおこない保護者から同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		日々の療育のフィードバック時に必要な助言や支援をおこなうと共に、定期的また必要に応じて面談の機会を設けています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	1	就学前の年長組の児童の保護者を対象に茶話会として保護者同士で交流する機会を設けています。またご利用時には小集団療育においてきょうだい同士でも交流頂いています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		相談や申し入れがあった場合、電話や面談にて迅速かつ適切に児発管や臨床心理士等が対応するよう受け付けています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		毎月ChicoBoteだよりを発行して保護者へ行事予定等をお伝えすると共に、定期的にSNS等を活用し活動概要を発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		職員に個人情報の取扱いについての研修及び指導を行っています。今後も個人情報保護に充分な配慮と取り組みを行ってまいります。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		絵カードや写真、イラスト、スケジュール表などを用いた視覚支援や筆談などを行い、その方の特性に応じた配慮をしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	1	都島消防署との防災・避難訓練の際には児童・職員と共に地域住民の方にもご参加いただき開催しています。	
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		事故防止、緊急時対応、防犯、非常災害時対応、BCP、感染症予防・対応等の各マニュアルを策定し研修を行っています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		感染症BCPおよび自然災害BCPを策定しており、定期的に研修、避難、救出等の訓練をおこなっています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		契約時にお子さまの状況について確認し、症状に応じた判断や、非常時の連携機関など状況に合わせた対応方法を確認しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		契約時にお子様の状況について確認し、アレルギーの有無と対応方法について確認しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		安全計画を作成し、研修、点検、訓練の担当を決めて定期的に訓練を実施し安全管理につとめた運営をおこなっています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		こどもの安全確保のための安全計画に基づく説明や避難訓練ならびに防災訓練をおこなった取り組みを機関紙等で周知しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		ささいなことでも報告書に記載しミーティングを通して職員で共有することで意識を高め再発防止の方策を日々検討しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		社内の虐待防止委員会において虐待防止研修をおこない、職員間でも定期的に研修のなかで適切な対応を学び確認しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10		組織的に決定した内容を契約時に説明し、了承を得ています。必要に応じて児童発達支援計画に記載し反映しています。	